

I N D E X

---

- BIO 2013 レポート
  - 米国 2014 年予算教書における医療費削減施策について
  - 第 10 回国際ゲノム会議開催のご案内
  - 平成 25 年度蛋白質立体構造解析 NEDO 特別講座のご案内
- 

---

■ BIO 2013 レポート

---

バイオ・製薬業界での世界最大のイベントである BIO (Biotechnology Industry Organization) International Convention が、4 月 22 日 (月) から 4 月 25 日 (木) の 3 日間にわたり、米国シカゴにて開催されました。参加者は 13,594 人、62 ヶ国 (昨年は 16,505 人、65 ヶ国) で 1/3 は海外からの参加であり、1,722 の団体が出展し、約 125 のセミナーが開催されました。

日本からは、日本貿易振興機構 (ジェトロ) が主催する日本パビリオンが設けられ、ベンチャー企業 19 社が出展しました。JBIC 会員企業からは iPS アカデミアジャパン、オーピーバイオフィクトリー、理研ジェネシスが参加されました。

BIO は、出展している企業や団体と個別商談を進めるビジネスパートナーリングに重点を置いているのが特徴であり、展示会場の中心にパートナーリングブース (全体の 1/3 のスペース) を設け、昨年を上回る 25,573 件のミーティングが 2,800 社の間でなされました (昨年は 25,291 件)。参加者数が 2 割近く減ったのに対し、ミーティング数はほぼ変わらなかったことから、1 社あたりのミーティング数が増加し、活発なミーティングが行われたようです。

Keynote Luncheons では、例年著名な政治家が登壇するのですが、今年は、オバマ大統領が 2010 年に設置した超党派の財政責任・改革委員会で共同

委員長を務めたアラン・シンプソン氏とアースキン・ボウルズ氏の二人で、例年に比べて地味なメンバーであり、日本での知名度は低いのではないかと思います。今回は財政再建が必要とされる時代の医療費について議論されました。昨年よりも参加者が減ったせいか、毎年 30 分以上前から並ばないと取れないような **Keynote Luncheons** でも今年は半分程度しか座席が埋まっていなかったのが印象的でした。

ビジネスパートナーリングでは、50 人程度収容される会場で企業によるプレゼンが毎日開催されていました。各企業は約 25 分の時間でその企業の背景紹介、技術、今後の開発予定分野、これまでのパートナーリングの実績等の紹介を行い、プレゼン後にパートナーリングミーティングのアポをとる姿がみられました。プレゼンを実施する企業はベンチャーからメガファーマと様々で、企業規模にかかわらず積極的にビジネスチャンスを創りだそうとする光景が印象的でした。

---

#### ■ 米国 2014 年予算教書における医療費削減施策について

---

オバマ米大統領は 4 月 10 日、3 兆 7700 億ドル規模の 2014 会計年度の予算教書を議会に提出しました。この予算教書では、懸案となっている財政赤字を富裕層に対する減税措置見直しや医療費削減などを通して、10 年かけて 1 兆 8000 億ドル削減する計画となっており、米国製薬品業界では、この医療費削減の施策にかなりの懸念を示しているようです。

具体的には、オバマケア法と呼ばれているオバマ政権が推進する医療保険制度改革を通じて 10 年間で約 4,000 億ドルの医療費削減を目指しており、メディケア（高齢者向け公的医療保険）とメディケイド（低所得者向け公的医療保険）の払い戻し率の標準化や、効率改善と浪費削減のためのプログラム変更が主な内容となっています。

これに加えて、バイオ医薬（**Biologics**）のデータ保護期間（**Data Exclusivity**）の短縮により、ジェネリック医薬品（**biosimilars**）の開発を促進させ、医療費削減を目指しています。具体的には、米国でのバイオ医薬品のデータ保護期間は 12 年間ですが、これを 7 年間に短縮することにより、バイオ医薬品のジェネリックの開発を加速できるとしています。

欧米では、医薬品製造承認における毒性や臨床などのデータは、新薬メーカーが多額の研究開発費と長期間を費やし得た知的財産であると認識され、それらのデータは一定期間保護されており、この期間は「データ保護期間」と呼ばれています。米国でのデータ保護期間は、低分子化合物の新薬については5年間、効能追加については3年間、バイオ医薬品については12年間となっています。

ジェネリックメーカーなどはこのデータ保護期間後でないと、臨床データなどをジェネリック医薬品申請のために利用できない仕組みとなっていますが、今回の医療費削減策では、このバイオ医薬品に対するデータ保護期間を12年間から7年間に短縮するものであり、これに対して、米国医薬品業界では、新薬メーカーの次世代バイオ医薬品開発への投資を阻害するとの懸念を示しています。

---

#### ■ 第10回国際ゲノム会議開催のご案内

---

「ゲノムルネサンス」をテーマに、医学を中心に今まさに急激に発展しつつあるゲノム科学の最新の成果を知り、次世代シーケンサーなどの新技術の今後の展開を展望することを目的とした第10回「国際ゲノム会議」を下記のとおり開催いたします。

ゲノム科学は新しいビッグデータの時代に突入しております。次世代シーケンサーの進歩を受け、ゲノム科学は、ヒトゲノムプロジェクトを彷彿とさせる配列決定を基盤としたビックデータに基づくサイエンスに進化しつつあります。

このような進化は、まず医学研究で顕著であり、多数の患者サンプルのゲノム解析を基盤としたプロジェクトが進行しており、疾患の発症・進展メカニズムの解明を通じて、システムティックに創薬ターゲットの発見や個別化医療の実現に迫ろうとしてきています。また、このトレンドは、医療・創薬のみならず、微生物や動植物のゲノム解析を通じて、エネルギー、環境、農業など、幅広い分野に大きな影響を与えつつあります。

第10回国際ゲノム会議では、がんゲノム分野の第一人者である Todd Golub 教授、ゲノム分野の長老である Charles Cantor 博士はじめ、新進気鋭の若手を講師にお招きし、ゲノム分野の最新情報が海外の学会等に行かずに入手できる良い機会ですので、奮ってご参加ください。

日時： 2013年5月21日（火）－5月23日（木）  
会場： 学術総合センター（一橋講堂）  
詳細： <http://gt164.jpn.org/10agw/>  
申込： <http://gt164.jpn.org/10agw/jp/registration.html>

お問い合わせ：

第10回国際ゲノム会議 運営事務局  
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 岩波書店一ツ橋別館 4F  
TEL：03-3230-2744  
FAX：03-3230-2479

-----  
■平成25年度蛋白質立体構造解析 NEDO 特別講座のご案内  
-----

「蛋白質立体構造解析 NEDO 特別講座」の開催についてご案内します。

本講座は、NEDO プロジェクト「生体高分子立体構造情報解析」の成果を受け、名古屋大学、東京大学、大阪大学の3拠点が技術的に連携し、創薬に資する基盤技術に関して人材育成を通し産業界に還元する目的で実施するものです。

【講座概要】

◎構造生物学講座（名古屋大学）

極低温電子顕微鏡による立体構造解析基礎技術、膜生物学

◎蛋白質計算科学講座（大阪大学）

計算科学による、分子シミュレーションと高分子系への展開

◎分子認識解析講座（東京大学）

生体系 NMR の基礎と応用および NMR を用いた分子間相互作用解析法

講座内容の詳細及び講座スケジュールについては、下記のホームページをご覧ください。

<http://nedo.cespi.nagoya-u.ac.jp/>

【定員】

講義定員：50名程度（会場の定員：必要に応じて見直します）

実習定員：8名（申込書に基づき簡単な審査をし、可否をお知らせします）

【申込】

随時受け付けております。

詳しくは、下記 URL にて申込方法をご覧ください。

<http://nedo.cespi.nagoya-u.ac.jp/apply.html>

【参加費】

無料

【お問い合わせ】

蛋白質立体構造解析 NEDO 特別講座 事務局

（東京大学大学院薬学系研究科）

[info-nedo@nedo.cespi.nagoya-u.ac.jp](mailto:info-nedo@nedo.cespi.nagoya-u.ac.jp)

=====  
=====  
めるまが1月号より「JBIC 会員企業からのご案内」の項目を新設しました。

JBIC 会員企業で掲載して欲しい記事がございましたら、ご連絡ください。

なお、掲載の可否については JBIC 事務局にて判断させていただきますので予め

ご了承ください。

●JBIC に関するご意見、ご質問、お問い合わせはこちらから。

<https://www.jbic.or.jp/roku/voicebox/input.html>

=====  
=====  
●配信中止、変更はこちらから。

[https://www.jbic.or.jp/roku/m\\_chushi/input\\_ch.html](https://www.jbic.or.jp/roku/m_chushi/input_ch.html)

=====  
=====  
●発行：一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

JBIC めるまが編集部 <http://www.jbic.or.jp/>

Copyright(c) 2013 JBIC. ALL rights reserved.